

次世代ケアの 創造と実現に向けて



TUCSCO各センター部門 活動進捗報告



東北大学ケアサイエンス共創センター キャリアプロモート部門



東北大学病院看護管理室 副看護部長 今野 朱美

平成30年11月8日(木)
第5回東北大学ケアサイエンス共創センター講演会



組織図

東北大学
SATOMI VISION 2013

保健学専攻看
護学コース

看護部

東北大学
ケアサイエンス共創センター

Tohoku University Care science Co-Creation Center
(センター長：鈴木由美 副センター長：吉沢豊子)

評価部門

(保) 塩飽仁
(看) 奥山節子

運営委員会

キャリアプロモート部門

リサーチマインドを育む教育

(保) 佐藤富美子
(看) 今野朱美

ケアリサーチ部門

新しいケアの創出

(保) 宮下光令
(看) 浦山美輪

プラクティス部門

エビデンスを臨床実践に繋ぐ

(保) 尾崎章子
(看) 佐々木百合花

基礎教育ユニット

継続教育ユニット

キャリアプロモート部門目標

リサーチマインドを育む教育

リサーチマインド定義: 日々の実践を研究的に検証・蓄積していくこと、あるいは既にあるエビデンスを資源として活用していく事である

基礎教育ユニット

看護学生のリサーチマインド基礎の形成

継続教育ユニット

臨床看護師のリサーチマインドの育成

東北大学医学部保健学科インターンシップ

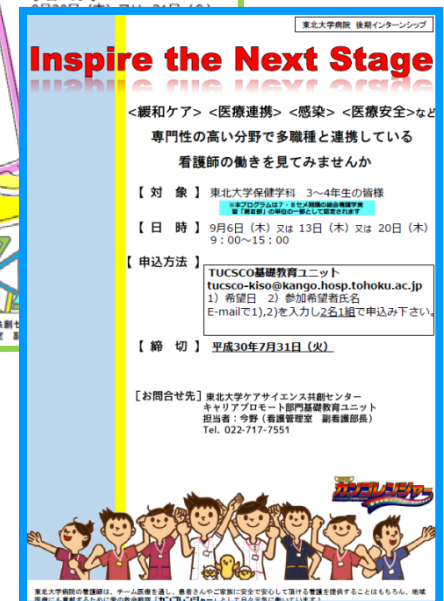
目的 学生のリサーチマインドの手がかりとなる基盤作りと看護に対する探究心を育む

初期（1，2年生）

看護実践の場を直に体験することを通して、学生が看護にコミットすることに主眼を置き、看護学を学ぶ動機づけを行う

後期（3，4年生）

これからの健康問題、医療ニーズを踏まえ、他職種と連携して様々な分野における看護の役割を考察し、問題解決および看護創出に向けた研究思考性を養う



初期インターンシップ アンケート内容から (2年生 6名 参加) ①

◆インターンシップに期待していたこと

- どんな事を考えながら患者さんと接しているか、どんなことに気を付けながら、根拠を持って看護を行っているのか
- よりリアルなケアの現場を見て、自分が将来どのように働くのかを具体的にイメージを持ちたいと思ったから
- 去年もポスターを見ていて参加してみたいと感じていた

初期インターンシップ アンケート内容から (2年生 6名 参加) ②

◆自由記載・感想

- 根拠を自分から説明できること、学ぶ姿勢をつくる大切さを学ぶことが出来た、身が引き締まる思いがした
- 看護師がどんなことを考えて患者さんと接しているのかわかった
- 臨機応変に対応する姿を間近で見学出来てよかった
- 理論を学んだ後で見学をしたので、前とは違った視点でみることが出来た
- 理由があって看護行為が行われていることがわかった
- 後期のインターンシップも参加したい
本当にありがとうございました

後期インターンシップ アンケート内容から (3年生17名 4年生2名参加) ①

◆インターンシップに期待していたこと

- 「チーム医療」多職種との連携を行う中で、看護師がどのような役割を果たしているのかを、実際の現場で見て学びたいと考えた。

◆多職種と連携し、問題解決に向けた看護の役割が理解できましたか

…大変そう思う 68% (13名)

どのような場面でそのように感じたか

- 看護師それぞれが専門分野の知識を活かし、意見交換していた
- 患者と接する以外の部署にも看護師がいて、多職種と連携していることを初めて知った

後期インターンシップ アンケート内容から (3年生17名 4年生2名参加) ②

◆自由記載・感想

- 看護師の役割について視野を広げる事が出来た。
- 多職種での「チーム医療」は地域までということが退院支援カンファレンスを通して感じた。
- 医療情報や感染管理では、「看護をする前の病院の土台」「経験を豊かにする」など印象に残ることが多くあった。
- いろんな職種が関わっていることがわかり、幅広い知識が必要であることを学んだ。
- 患者様のコミュニケーションをするにも根拠を持った説明が必要であるので、身につけていきたい。
- 就職する前に、参加することで、今後どのようなことを身につけたらよいか参考になった。
- 大学病院で働くには、経営の側面や社会情勢の知識が必要であり、いろいろな経験を積んで多くの知識をつけたいと感じた。

インターンシップ3年間実施して

- 今後に向けて感じていること

- 考える機会を繰り返し積み重ねて、思考性が高まる
日々の積み重ねが大切
- 保健学科3年生と、今年度は2年生も年明け後に「卒業研究テーマ」選定時期である。インターンシップに参加した学生にとって、リサーチマインドの醸成への影響が見られたか
追跡調査も有効かもしれない

(初期インターンシップ、後期インターンシップに通して参加されていた学生が3名いた)

臨床看護師のリサーチマインドを育む 教育プログラム開発

看護師が臨床研究を行うために必要な教育や環境ニーズを
明らかにするために、昨年夏に実施した質問紙調査を基礎資料とした

対象

A大学病院の看護職員

調査内容

- (1) 対象の背景
- (2) 看護基礎教育課程卒業後の看護研究に関する経験
- (3) 組織に求める看護研究力を高めるための支援



リサーチマインドを育む教育プログラム

～看護研究のプロセスを学びながら、看護研究の指導者・支援者になる～

教育プログラムへの参加者募集!!

～看護実践を研究に繋げてみませんか?～

継続教育ユニットでは看護実践を研究に繋げられる人材育成を目指して「教育プログラムの構築」を昨年度から検討してきました。

教育プログラムの目的は以下の3点です。

- ① 卒後3年目看護師の「事例研究」に対してアドバイスができる
- ② 先行研究を活用し自部署でカンファレンスの運営ができる
- ③ 臨床看護師の看護研究に関する相談に応じることができる

オブザーバーの指導の下、実際に看護研究を行いながら、テーマ選定から学会発表までのプロセスを学ぶことが出来ます。

受講期間：平成30年7月から2年間(予定)・・・308時間の8時間保障あり

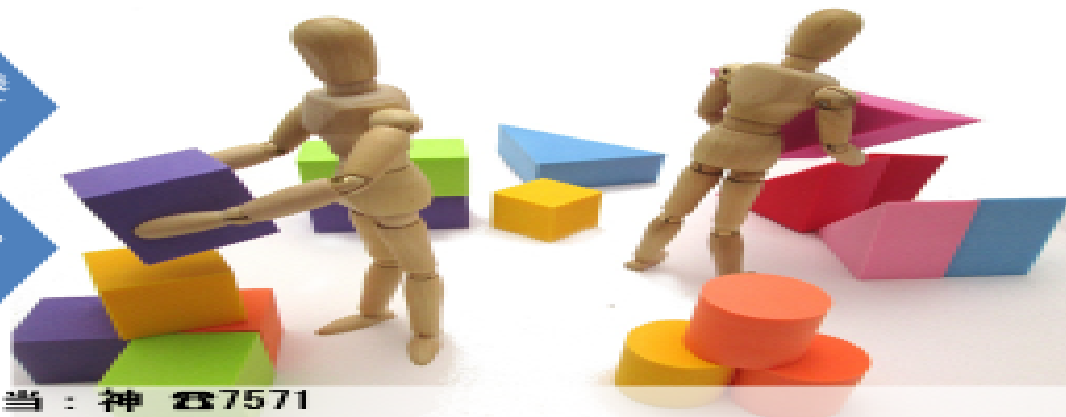
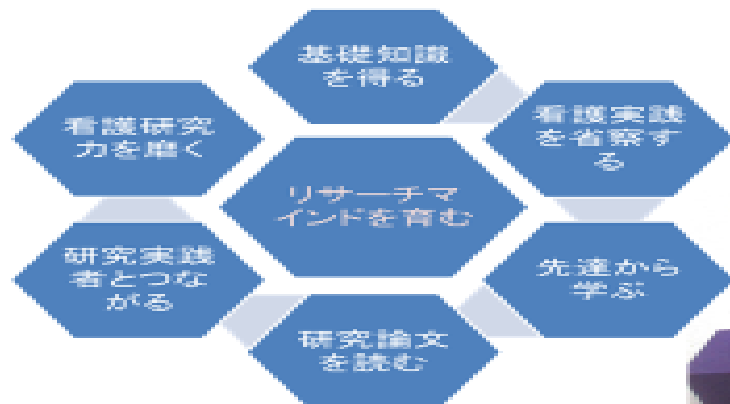
募集人数：9名

参加条件：TNADSレベルⅡ以上を取得している看護師
所属長より推薦があり参加許可を得られた看護師
2年間継続参加する意思のある看護師

申込期間：平成30年5月25日(金)まで

申込方法：Nurse支援室 神 までお知らせください
(内線：7571 PHS:5658)

教育プログラムに参加して「看護研究」をより身近なものにしていきませんか?



問合せ先：【ナース支援室】担当：神 ☎7571

今年度の学会発表・予定

● 平成30年8月28日横浜 日本看護学教育学会学術集会
臨床看護師のリサーチマインドを育む教育プログラムの作成

○佐藤富美子1)、酒井敬子2)、神裕子2)、片倉睦2)、山内泰子2)

1)東北大学院医学系研究科がん看護分野

2)東北大学病院

● 平成30年12月15日松山 日本看護科学学会学術集会
看護師が臨床研究を行うための教育・環境ニーズに関する質的分析

○神裕子2)、佐藤富美子1)、酒井敬子2)、片倉睦2)、山内泰子2)

1)東北大学院医学系研究科がん看護分野

2)東北大学病院



ご清聴ありがとうございました。





TUCSCO ケアリサーチ部門

TUCSCO講演会
平成30年11月8日
東北大学病院
副看護部長 浦山美輪

TUCSCO組織図

東北大学
SATOMI VISION 2013

東北大学
ケアサイエンス共創センター
Tohoku University Care science Co-Creation Center
(センター長:鈴木由美 副センター長:吉沢豊子)

保健学専攻
看護学コース

看護部

評価部門
部門長 (保)塩飽 仁
(看)奥山節子

運営委員会

キャリアプロモート部門
リサーチマインドを育む教育
(保)佐藤富美子
(看)今野朱美

ケアリサーチ部門
新しいケアの創出
(保)吉沢豊子
(看)浦山美輪

プラクティス部門
エビデンスを臨床実践に繋ぐ
(保)尾崎章子
(看)佐々木百合花

ケアリサーチ部門



■ 理念

東北大学ブランドによる新しいケアの創出

■ ケアイノベーションユニット

TUCSCOプロジェクトによる新しいケアの創出

■ 臨床ナースリサーチ支援ユニット

臨床看護研究の強化・推進のための支援

■ メンバー

- 看護学専攻 吉沢豊子、田口敦子、菅野恵美、清水恵
青山真帆、中村康香、光永憲香
- 看護部 浦山美輪、大桐規子、坂本千尋、佐山恭子
- 医学教育推進センター 高田望

平成29年度の成果



臨床ナース リサーチ支援ユニット①

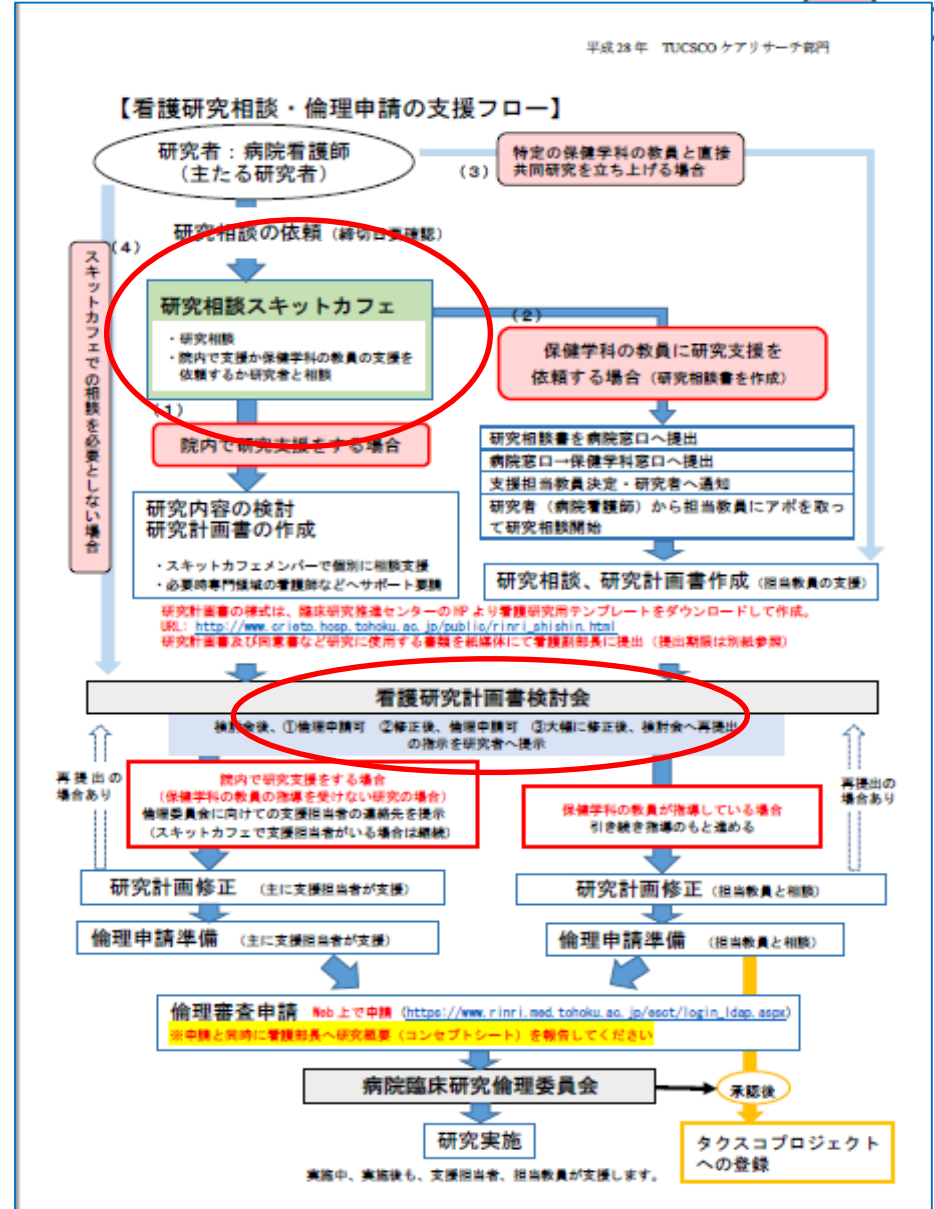
■ 月2回のスキットカフェを開催した。相談件数 21件

■ 看護部看護研究計画書検討会（以下検討会）に委員を派遣し、研究計画書作成、倫理委員会への提出の支援を行った。

活動報告10件 研究 14件

■ 研究の種類分けチャートを作成し、検討会に提出する書類と活動の手順を示した。種類分けにより検討会での助言内容が整理された。

■ 検討会の結果は、結果通知書を作成し、議事録とともに書面で研究者に通知した。



平成29年度の成果



臨床ナースリサーチ支援ユニット①

- 研究能力向上支援として、「倫理申請講習会」を実施し、参加者数は26名であった。講義内容は録画し、ISTUで看護部、保健学科教員、院生を対象に配信した。
- 学会・研究会等、院外の発表が40件（共同研究3）であった。（前年比－12件）

平成30年度の活動計画と現状報告



ケアイノベーションユニット

- 相談・支援を実施中の研究の進捗の管理（共同研究13件）。

臨床ナースリサーチ支援ユニット

- 臨床看護師が気軽に看護研究の相談ができる窓口としてスキットカフェ開催と相談担当者による支援を継続する。
【10月末日現在】 スキットカフェ 4件
検討会：活動報告20件 症例報告 3件 研究2件
- 「看護研究の手引き」を改訂し、昨年度から整備した研究支援体制について収載し、年度内に発行する。

平成30年度の活動計画と現状報告



臨床ナースリサーチ支援ユニット

- キャリアプロモート部門と合同で、研究能力向上のための講義を4回シリーズで企画・実施した。実施した講義内容はISTUで配信した。

■ 参加人数

第1回	15人
第2回	13人
第3回	12人
第4回	10人

参加者は概ね満足していたが参加人数が少なかった。グループウェアで看護師全員にポスターを配信し、看護師長会で周知したが、参加人数は伸びなかった。次年度の企画に活かしていきたい。

TUCSCO ケアリサーチ部門・キャリアプロモート部門共同開催

苦手意識を吹き飛ばそう!
看護研究へのファーストステップ

Let's Enjoy Nursing Research

日時	内容	会場
第1回 8月1日(水) 16:00~	リサーチマインドを育む教育プログラムキックオフ 同時開催 看護研究のシーズを見つける 講師:松井恵子氏(東北大学病院 西7階)	第5会議室
第1回(再) 9月4日(水) 17:30~18:30	看護研究のシーズを見つける 講師:松井恵子氏(東北大学病院 西7階)	第5会議室
第2回 9月13日(木) 17:30~18:30	リサーチクエストの立て方を学ぼう 講師:未定	第5会議室
第3回 10月11日(木) 17:30~18:30	文献検索方法を学ぼう 講師:図書館学分館 司書	第5会議室
第4回 10月22日(月) 17:30~18:30	看護研究倫理とは 講師:清水恵氏(臨床研究推進センター)	第5会議室

※当日参加も可ですが、資料用意のため、事前申し込みのご協力をお願いします

2か月集中してがんばろう!

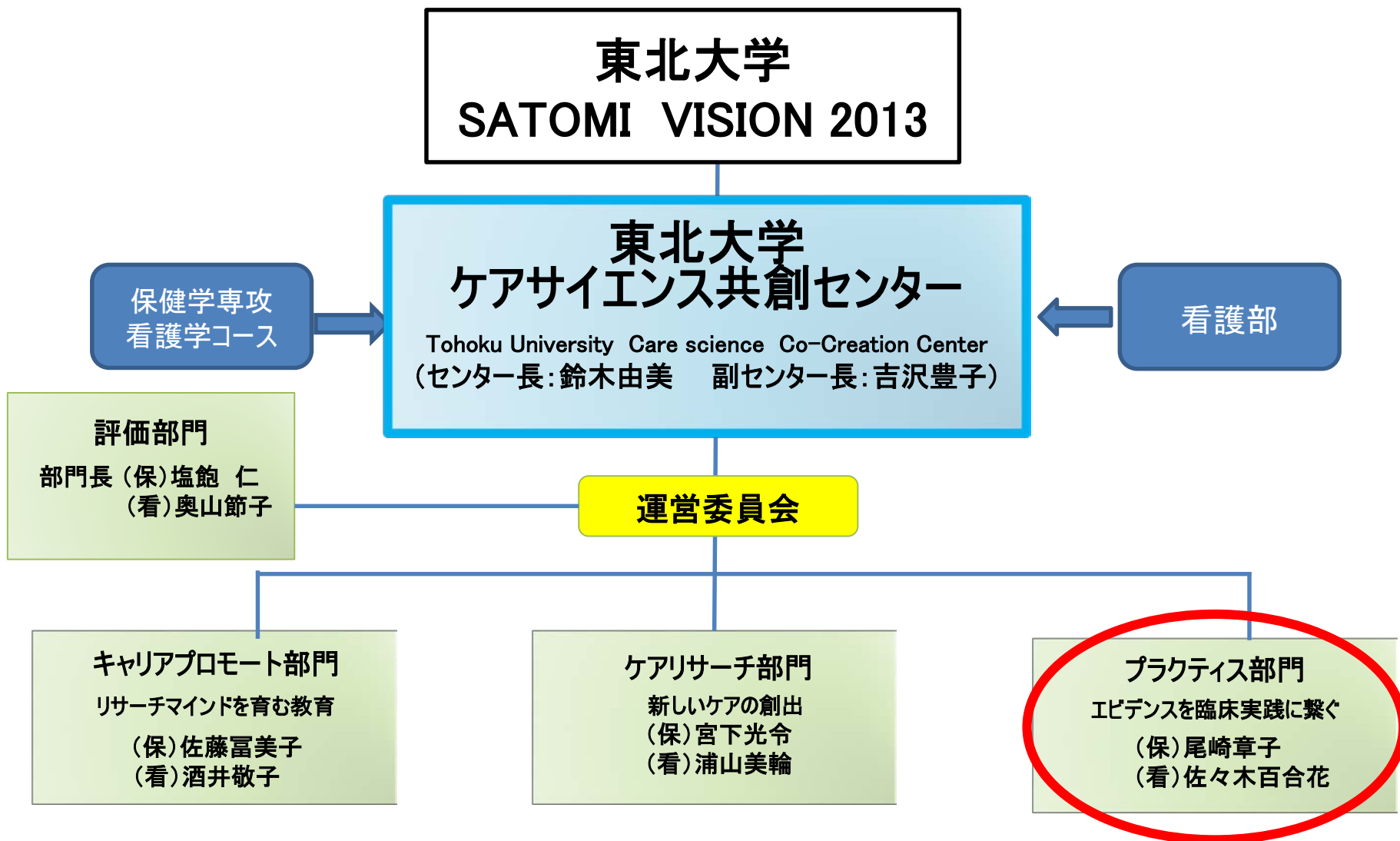
問い合わせ・事前申し込み先
グループウェア連絡帳で、西5会議室 佐山 山崎子_or
Email: yaguzou@med.tohoku.ac.jp(佐山) まで

プラクティス部門

TUCSCO講演会

平成30年11月8日(木)

TUCSCO組織図



プラクティス部門ユニット

看護実践力向上ユニット

- ＊看護実践力向上のための支援
- エビデンスの現場への普及と看護実践能力の強化
- ケアリサーチ部門で得られたエビデンスの臨床での実践
- 海外就労・海外研修体験者との連携
- **大学病院ならびに地域の看護師の実践力の向上の支援**

看護実践モデル開発ユニット

- ＊イノベティブな看護実践モデルの開発と支援
- 看護の質向上発表会、医療の質向上に関する活動報告の課題の支援
- 臨床研修推進センターとのシーズの発掘及び共同開発
- **保健学科と大学病院が協働し、地域特性を考慮した社会資源の開発東北大学ブランドとしての地域における医療の先駆的モデルを発信**

平成29年度活動報告

①部門会議の定期開催

②部門活動の目的・計画の見直し

主なコンセプト

「施設間の連携に強い看護師の看護実践能力の向上」

【実施】

①6月・7月・9月・11月（2回）の計5回の開催

②活動の目的を基に、メンバー内でのディスカッション

看護師の実践能力で期待すること・地域包括ケア構想における

大学病院のあり方について（病院の側面から、保健学科の側面から）

③情報共有

病院で実施されている地域連携体制、派遣事業等

他施設の情報収集

*** 長期計画を立て、関係各署と連携していけるように進める**

【計画案】 施設間の連携に強い看護師の育成

東北大学病院
7:1看護
特定機能病院
超急性期病院

医療依存度の高い
(重症・難病・最先端医療機器使用等)
患者を地域・在宅へ

情報共有
地域連携のためのスキル
アセスメント能力・調整力が不可欠

地域・
在宅

小規模多機能
ショートステイ等

地域医療センター

<前方支援>

・広報・企画担当・地域連携担当

<相談窓口>

・神経難病医療連携センター・ご意見窓口
・医療相談窓口・がん診療相談室

<後方支援>

・退院支援・在宅支援・かかりつけ医
・入院退センター（入院アナムネ聴取・退院支援）

各部署

・在宅療養支援委員会

・在宅療養支援

リンクナース

役割：患者・家族に対して退院支援がスムーズに提供できるように支援する

大学病院と地域で働く看護師の 教育体制

病院）教育体制として
「見て体験して学ぶ」
在宅の患者イメージがつく

地域）教育を受ける機会
で医療依存度が高い患者でも
在宅でケアできるスキルを身に着ける

人事交流

研修企画

看護実践力の向上⇒ スムーズな退院支援

平成30年度活動計画と活動

①部門会議の開催

②部門活動の目的・計画の見直し

主なコンセプト

「東北大が病院看護師に必要な在宅支援能力の向上」

③長期計画の立案

2018年度 院内ニーズ調査 プログラム検討 外部資金調達の準備

2019年度 訪問看護ステーションへの実習実施（短期）

2020年度 訪問看護ステーションへの実習実施（長期）

2021年度 評価 ニーズ調査との比較検討

【実施】

①7月（2回）、9月、10月4回開催（今後は、活動状況で実施）

②院内ニーズ調査の実施

「東北大学病院において在宅療養支援に必要なニーズの実際を明らかにする」ことを目的にインタビュー調査を実施している。

③プラクティス部門主催の講演会の企画



TOHOKU
UNIVERSITY

CREATING
GLOBAL
EXCELLENCE

第5回 東北大学ケアサイエンス共創センター 講演会

TUCSCO評価部門

文部科学省 看護GP

「看護師の人材養成システムの 確立」の効果報告

TUCSCO評価部門

塩飽 仁

東北大学大学院医学系研究科
保健学専攻 教授

評価部門の理念

● 理念

事業の適切性と発展のための評価・発信と
自律的マネジメントのサポート

● 目標

1. 事業の目標管理

部門ごとの適切な評価とそれらの総括とフィードバック

- 適切な目標設定と評価方法，自律的なモニタリングと方向修正
- 成果・評価の報告
- 事業全体の総括的評価（自己評価）

2. 事業成果の発信

- TUCSCO web siteの構築と管理・更新
- 事業の取組と成果の発信（web，印刷物等）



取組大学：東北大学

取組名称：看護キャリアプロモート支援システム開発

○取組概要

本取組は、看護師の臨床看護実践力習得のための教育力の向上と、キャリアパスを自らプロモートすることを支援する取組である。キャリアパスのひとつとして教育指導者育成のプログラムを開発した。

自分で考え、自分で選択、
自分で実行するキャリアプロモート



看護キャリアプロモート支援システム開発 ～臨床看護師の教育力向上とキャリアパス構築支援～

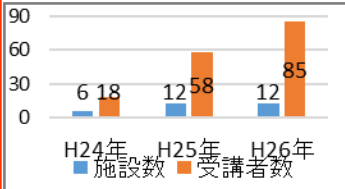
人にやさしく未来を見つめる

教育力育成プログラムの開発と展開 「AOBAナース・プログラム」

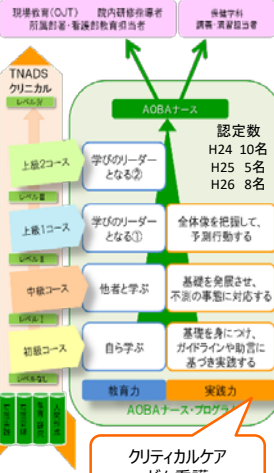
AOBAナース・プログラム受講実績

	H23年度	H24年度	H25年度
初級(10研修)	809	1029	916
中級(17研修)	1616	1337	1385
上級1(8研修)	303	280	313
上級2(11研修)		297	216
		[18人]	[59人]

院外からのAOBAナース・プログラム受講者受入数



院外にAOBAナース2名が誕生
H27年度からはAOBAナースとして地域病院と大学病院の橋渡し役を担う



組織的発展

キャリアパスの明示



「キャリアあれこれ」
看護師・教員72名の
キャリアインタビューを
冊子化してモデル提示

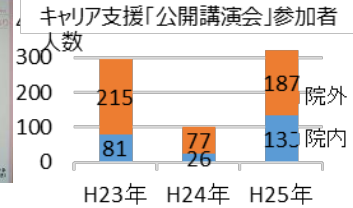


「キャリアプロモート・
ガイドブック」
キャリア選択の手引書
(全職員に配布)



「教育のしおり」
研修の自己選択を
促す資料 (H23から
毎年全職員に配布)

キャリア管理システムの構築と稼働



参加者の6割以上が院外からの参加者
その中で8割以上が看護管理者

地域のキャリア支援への波及効果

人事交流の活性化

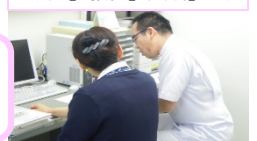
交流のための3つのしくみが完成

東北大学病院
看護部

1. 臨床看護師 (AOBAナース等)
2. 学生・3. 教員

医学部保健学科
医学教育推進
センター

教員と部署のマッチングによる
「研究」「教育」「実践」活動



学生インターンシップ



平成26年度
キックオフ

更なる連携・協働を目指し新センター創設

東北大学ケアサイエンス共創センター

Tohoku University Care Science Co-creation Center (TUCSCO タクスコ)

目的：知と技を結集し、次世代型ケアを創造する

全看護職員を対象にした事業評価の結果

平成22年度～平成29年度に実施

◎**キャリアについて**（4項目）

「キャリアアップ資源」「上司からのキャリア支援」「現状の評価」「キャリアアップ行動」

◎**教育指導について**（5項目）

「自己評価」「教育指導の実施」「受ける教育指導」「教育体制」「教育活動」

◎**看護実践（クリティカルケア技術）について**（8項目）

「一次救命処置」「気管内挿管の介助」「効果的な排痰法」
「人工呼吸器装着中の看護」「気管内挿管や期間切開時の吸引」
「ショック状態の看護」「全身麻酔手術直後の看護」「看護実践(アセスメント)」

各年度，全看護職員約1000名に実施。約80%の回収率。
年代はおおよそ20歳代50%，30歳代25%，40歳以上25%の構成。



全看護職員を対象にした事業評価の結果

平成22年度～平成29年度に実施

◎キャリアについて（4項目）

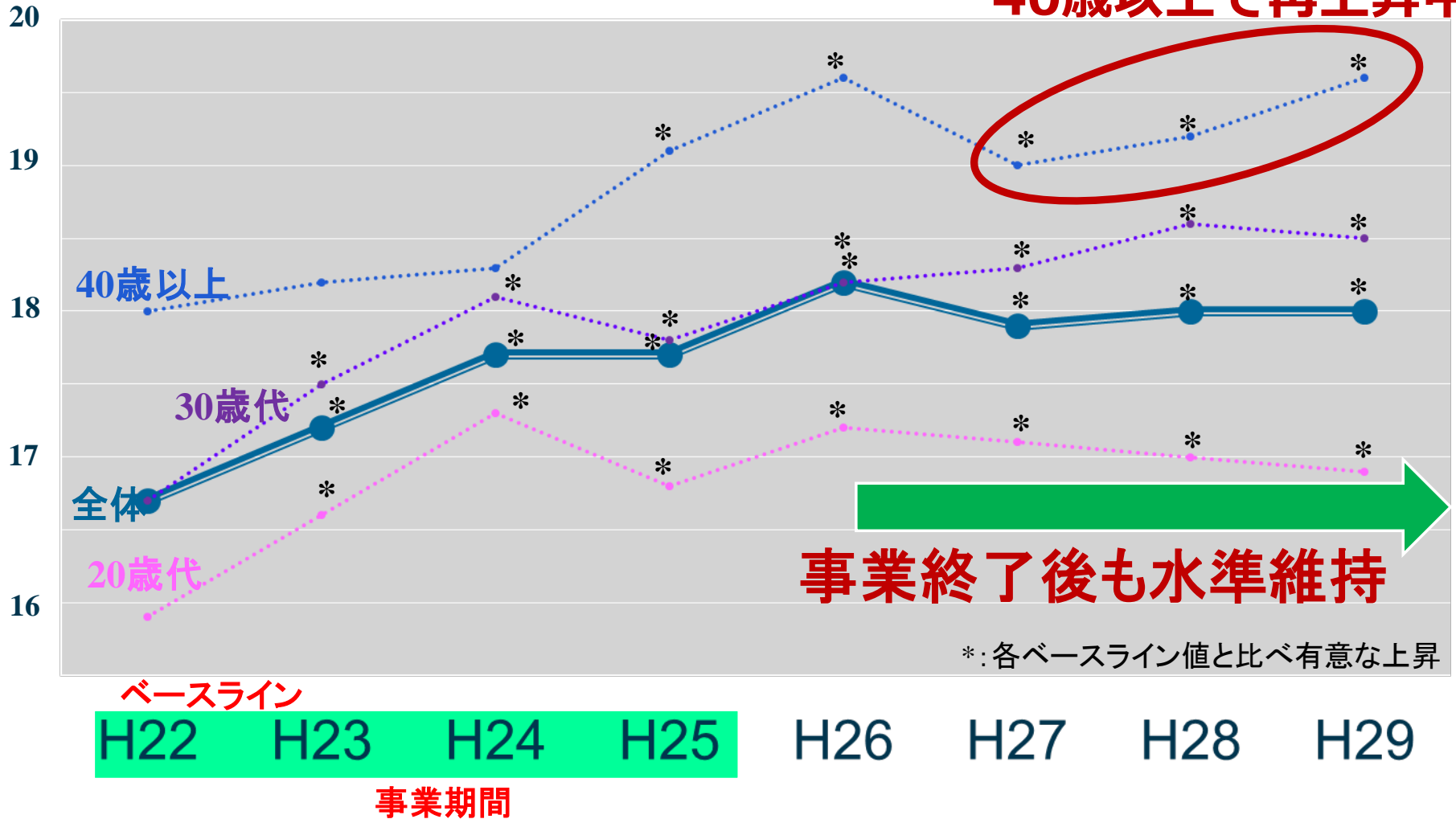
「キャリアアップ資源」「上司からのキャリア支援」「現状の評価」の3項目の得点は高水準を維持している。

- キャリアアップに関する情報や支援体制などの環境が改善していると認識されており、事業終了後も認識は継続しており、定着が伺えた。**
- 事業開始初期には上昇の見られなかった40歳代以上の看護師にも改善がみられた。**

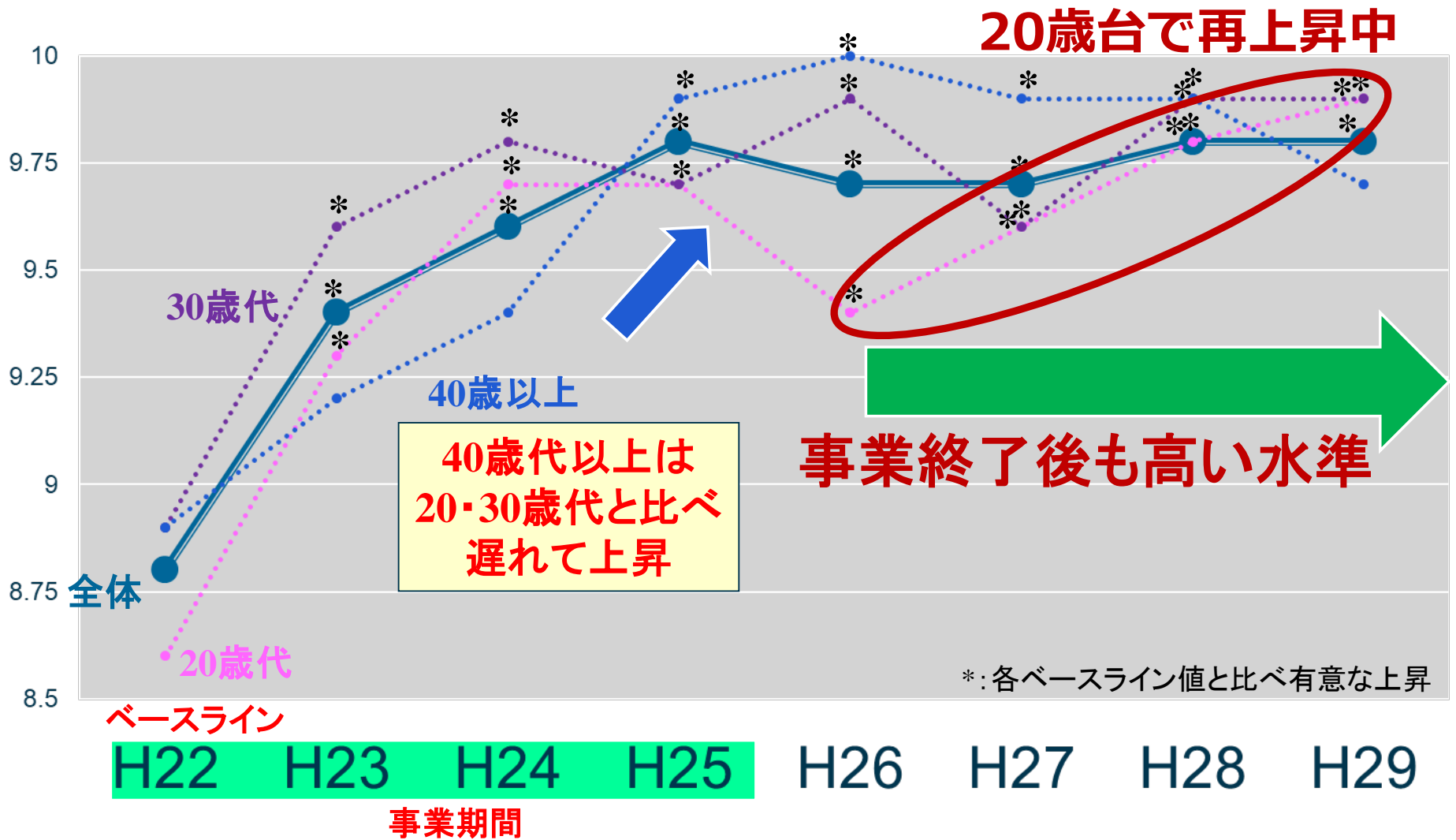


キャリアアップ資源の推移

40歳以上で再上昇中

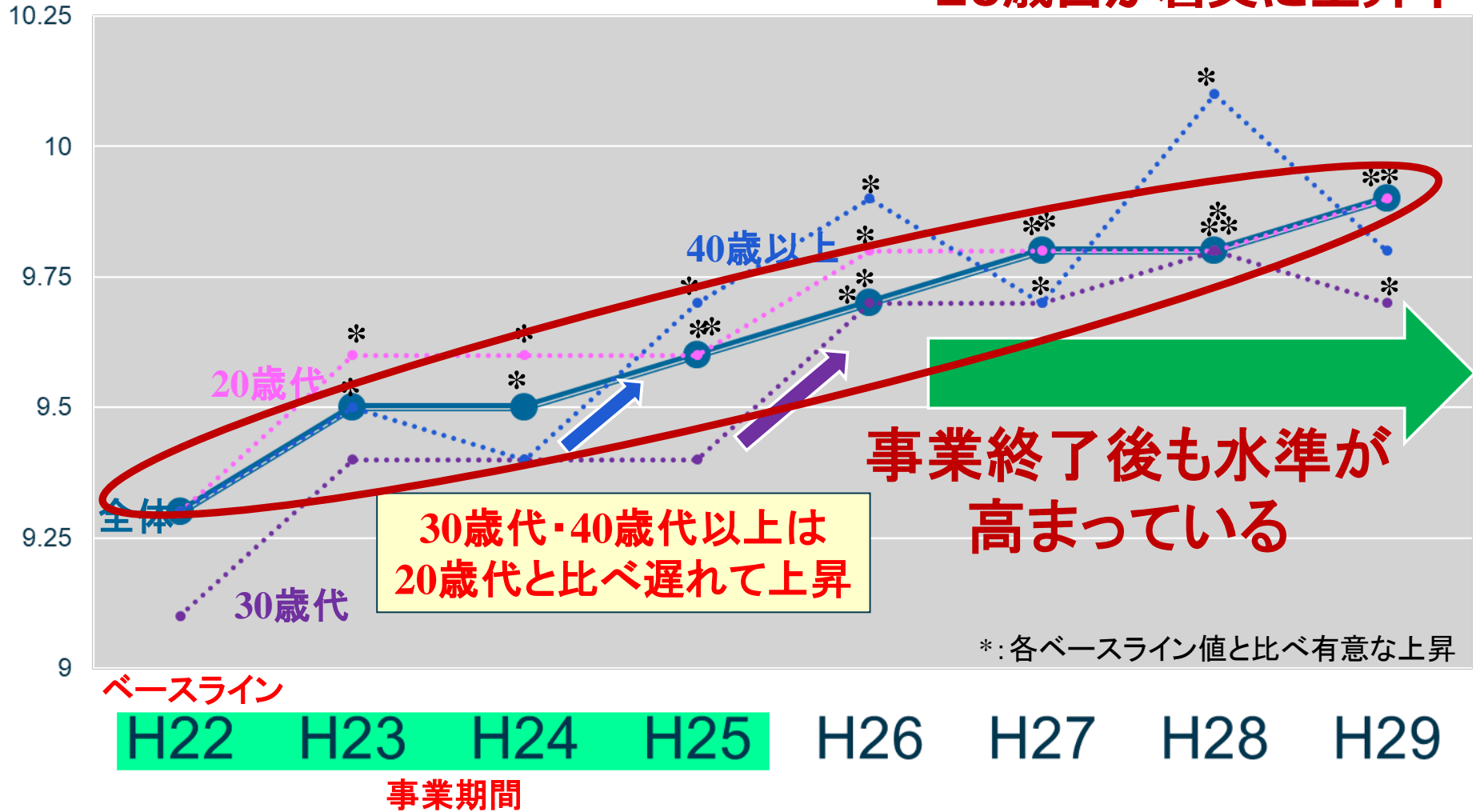


上司からのキャリア支援の推移

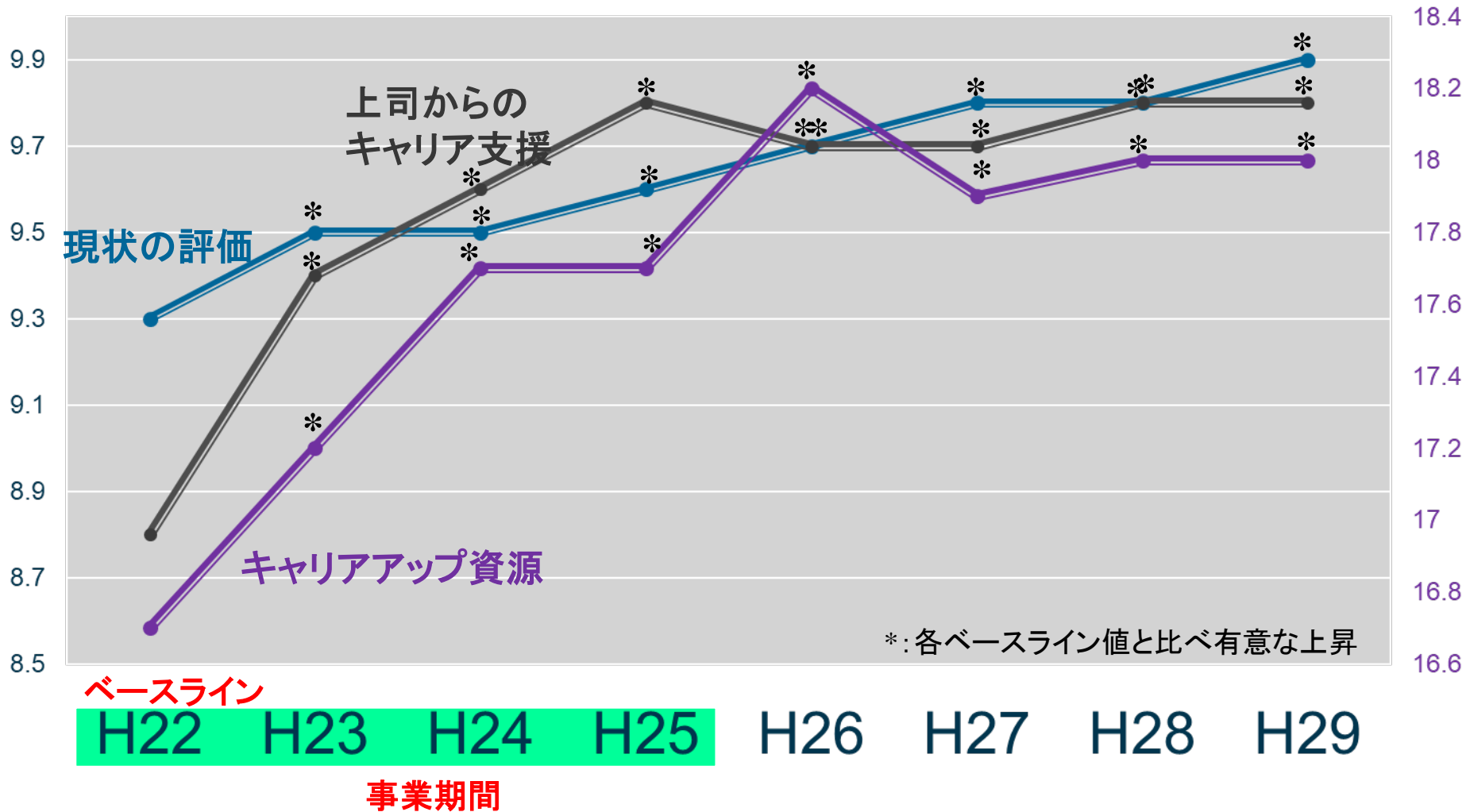


現状の評価の推移

20歳台が着実に上昇中



全対象者 キャリア評価項目の推移



全看護職員を対象にした事業評価の結果

平成22年度から平成29年度に実施

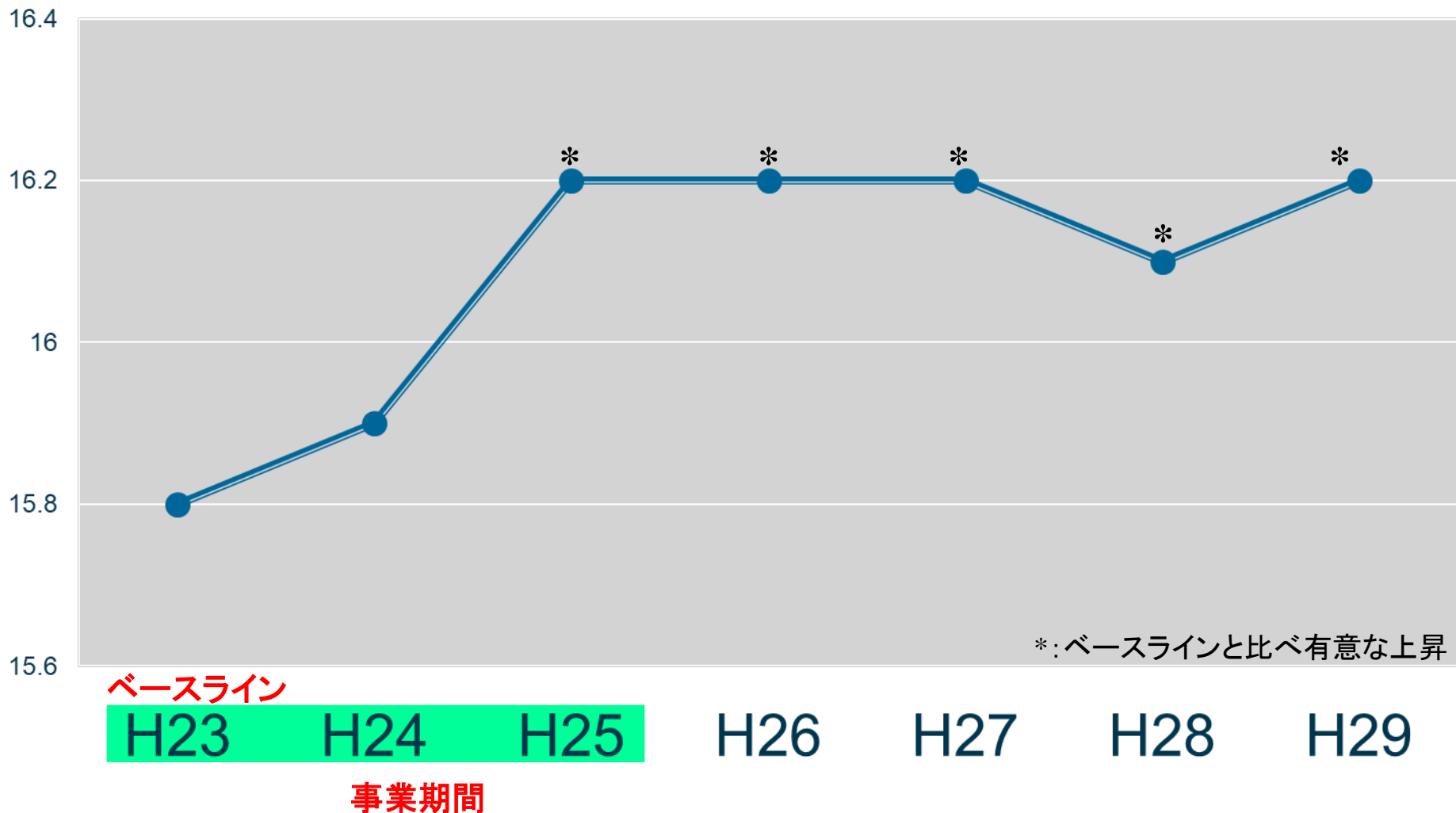
◎教育指導（5項目）

「受ける教育指導」「教育体制」の2項目の得点が上昇した。

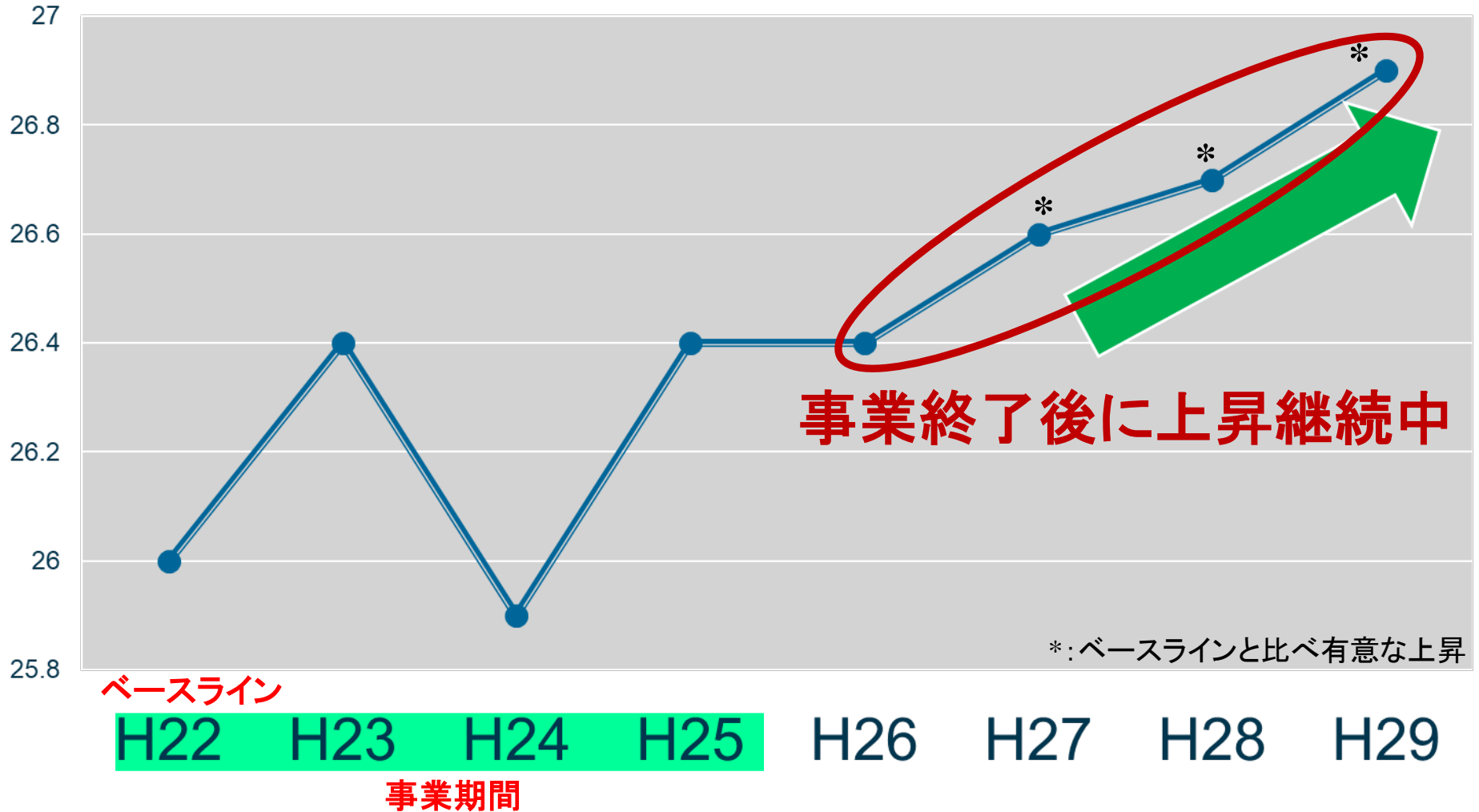
→中間評価では上昇が認められていなかったが、看護スタッフ一人一人の教育指導に関連した行動と自己評価の改善が長期的な効果として現れた。



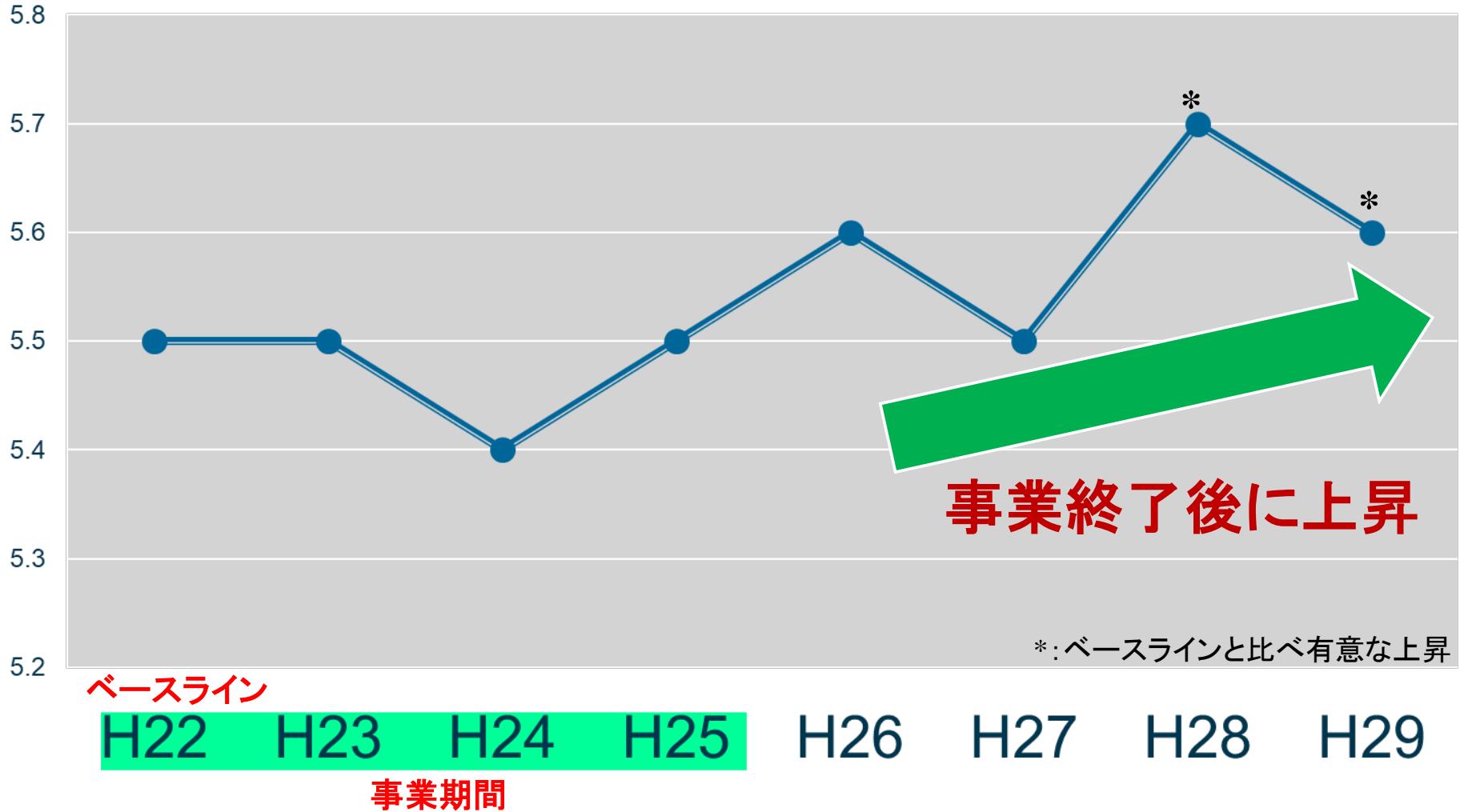
全対象者 教育指導自己評価の推移



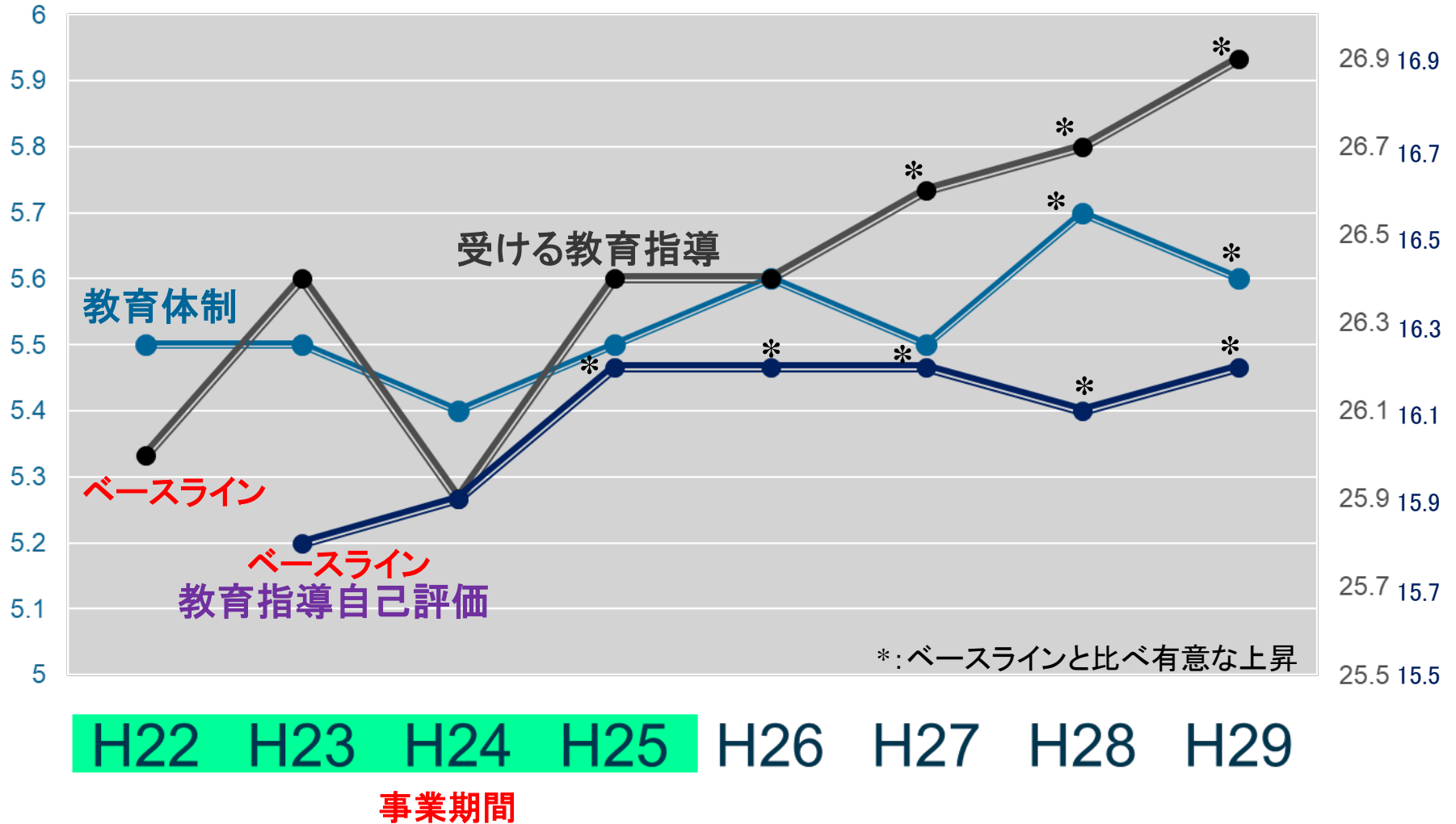
全対象者 受ける教育指導の推移



全対象者 教育体制の推移



全対象者 教育体制の推移



全看護職員を対象にした事業評価の結果

平成22年度および平成29年度に実施

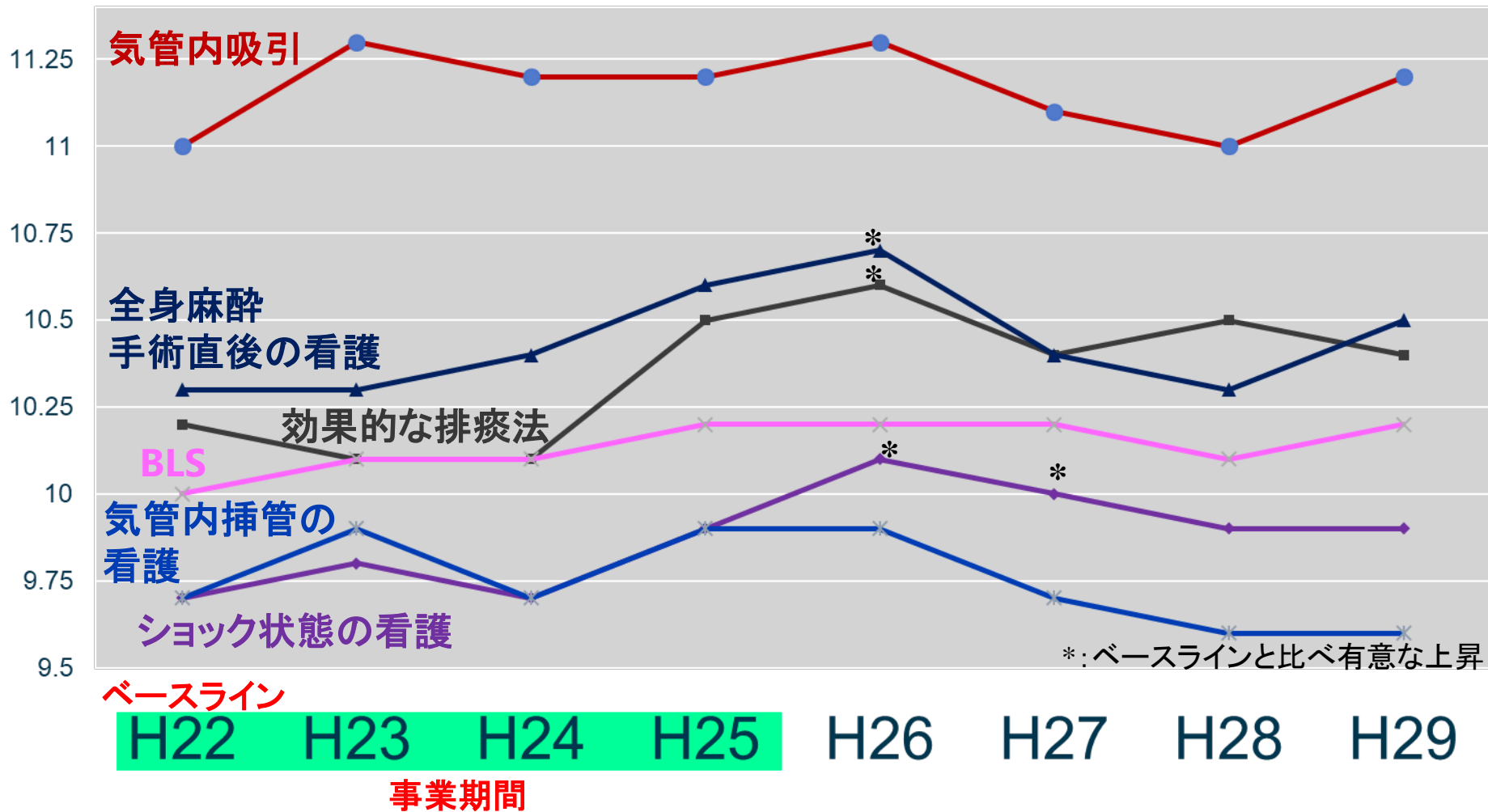
◎看護実践（技術）

「効果的な排痰方法」「ショック状態の看護」「全身麻酔手術直後の看護」において事業後に一時的な向上あるも平成28年度にはベースラインと同じ水準に戻り平成29年度も横ばい。

→一部の看護実践に当初は向上の効果がみられたが、時間の経過と共に効果が薄れた。
水準の向上、維持のためには現行教育の見直しと新たな教育の工夫が必要。

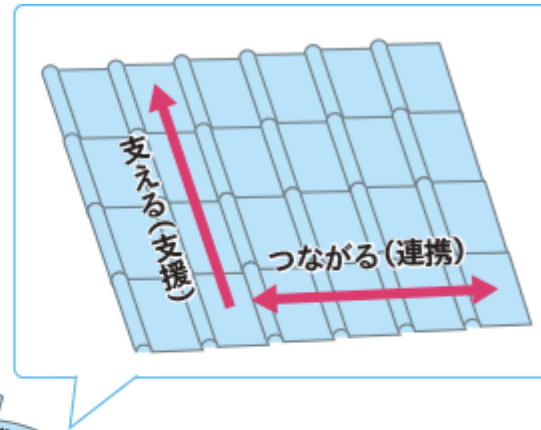
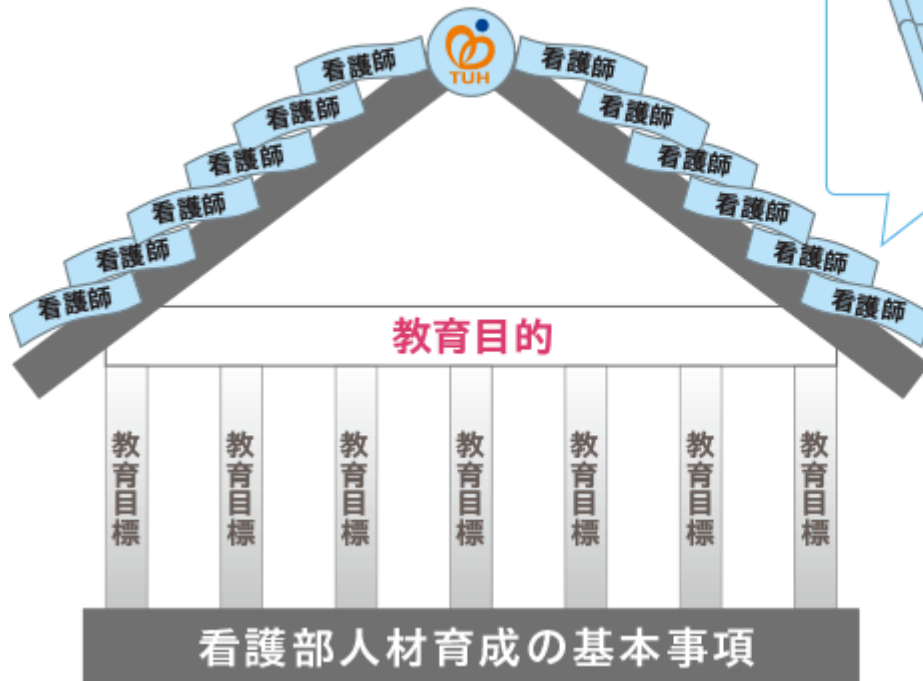


全対象者 看護実践の推移



今後の効果継続・向上のために

東北大学病院看護部 屋根瓦方式



屋根瓦方式とは、**教えられた側が次に教える側に回る**というようにちょうど一枚上の屋根瓦が一枚下の

屋根瓦に重なるようにして**重層構造をなす**ことです。

個々のスタッフは先輩を指導者とすると共に、後輩には教育指導をするという役割を担います。

他者に教えることにより、自己の学びが深まる機会を得ることになります。これにより、スタッフ全員で個々の学びを支えることになります。

東北大学病院看護部ホームページより引用



今後の効果継続・向上のために

東北大学病院看護部屋根瓦方式を常に意識して
自らの意志で・・・

- 研修に参加する
- On-The-Job Trainingを受ける
- 同僚の指導・教育に参画する
- 生涯にわたるキャリアパスを考える
- キャリアプロモートを行う

ケア力の向上, 教育力の向上, なりたい自分になる

